

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | アール医療福祉専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人筑波学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|-------------|----------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 医療専門課程 | 看護学科 | 夜・通信 | 1,125 | 240 | |
| | 理学療法学科 | 夜・通信 | 1,140 | 320 | |
| | 作業療法学科 | 夜・通信 | 1,110 | 320 | |
| 教育・社会福祉専門課程 | 介護福祉学科 | 夜・通信 | 900 | 160 | |
| 商業実務専門課程 | 医療事務学科 | 夜・通信 | 1,110 | 160 | |
| | ITビジネス学科 | 夜・通信 | 540 | 160 | |
| (備考) | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表を学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | アール医療福祉専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人筑波学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---------------------------------|
| 役員名簿を学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
|---------------------------------|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|--------|---------------------|---------------------|
| 非常勤 | 会社役員 | 平成30年4月1日～令和4年3月31日 | 法人の会計全般の確認 |
| 非常勤 | 会社役員 | 平成30年4月1日～令和4年3月31日 | 組織運営体制のチェック |
| 非常勤 | 会社役員 | 平成30年4月1日～令和4年3月31日 | 経営計画の策定補助 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | アール医療福祉専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人筑波学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程及び時期 毎年11月 教育課程(案)の内容を検討 毎年12月 教育課程編成会議において審議 翌年2月 授業計画書(シラバス)の決定 ・授業計画書(シラバス)の公表時期 入学年度4月 オリエンテーション時に公表 | |
| 授業計画書の公表方法 | <p>授業計画書(シラバス)を冊子にして学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学則第19条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 ・学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮し総合的に評価する。 ・成績評価は、A B C Dの4段階評価とする。 <ul style="list-style-type: none"> A：優(80点以上) B：良(70点以上80点未満) C：可(60点以上70点未満) D：不可(59点以下 不合格) | |

| | |
|---|---|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科ごとに履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出し(100点満点で点数化)、成績分布状況を作成する。 ・成績分布状況は、履修指導・学生支援等で活用する。 ・下位1/4に該当する者については、面談等により改善を促す。 | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | 成績分布状況を表す資料を学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校が目指す人材像を、学則第1条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 ・学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 | |
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | 卒業の認定を学習の手引きに記載し、学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | アール医療福祉専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人筑波学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|----------------------------|
| 貸借対照表 | 学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
| 収支計算書又は損益計算書 | 学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
| 財産目録 | 学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
| 事業報告書 | 学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
| 監事による監査報告（書） | 学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|--------|----|-----------------------|------------------|----------------|------------------|--------------|---------------|
| 医療 | | 医療専門課程 | 看護学科 | ○ | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼 | 3,120 単位時間/単位 | 1,140 単位時間/単位 | 450 単位時間/単位 | 1,500 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 | 30 単位時間/単位 |
| | | | 3,120 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 120人 | | 123人 | 0人 | 12人 | 27人 | 39人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| （概要） |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書（シラバス）の作成過程及び時期 毎年11月 教育課程（案）の内容を検討 毎年12月 教育課程編成会議において審議 翌年2月 授業計画書（シラバス）の決定 授業計画書（シラバス）の公表時期 入学年度4月 オリエンテーション時に公表 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要） |
| 学則第19条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。 <ul style="list-style-type: none"> 校内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮 |

| |
|---|
| <p>し総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、A B C Dの4段階評価とする。 <ul style="list-style-type: none"> A：優（80点以上） B：良（70点以上80点未満） C：可（60点以上70点未満） D：不可（59点以下 不合格） |
|---|

| |
|---|
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>本校が目指す人材像を、学則第1条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 ・学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 |
|---|

| |
|--|
| <p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談やミニテストの結果等から学生の履修状況を把握し、補講等が必要と思われる者に対して、個別指導やグループ指導を実施している。 ・クラス担任制をとっている。 |
|--|

| | | | |
|--|--------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 36人 (100%) | 1人 (2.8%) | 34人 (94.4%) | 1人 (2.8%) |
| <p>（主な就職、業界等）</p> <p>茨城県内医療機関の看護師（26人）、茨城県外医療機関の看護師（8人）</p> | | | |
| <p>（就職指導内容）</p> <p>就職ガイダンス、学外就職説明会、個別相談</p> | | | |
| <p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>第110回看護師国家試験 合格率 91.7%（合格者33人/受験者36人）</p> | | | |
| <p>（備考）（任意記載事項）</p> | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 120人 | 4人 | 3.3% |
| <p>（中途退学の主な理由）</p> <p>進路変更（3人）、学業不振（1人）</p> | | |

(中退防止・中退者支援のための取組)
出席不良者や学業等に悩みを抱える学生に対して、担任等が面談等の支援を行っている。

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|------------------|----------------|----------------|--------------|---------------|
| 医療 | | 医療専門課程 | 理学療法学科 | | ○ | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 昼 | 3,390 単位時間/単位 | 1,710 単位時間/単位 | 630 単位時間/単位 | 990 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 | 60 単位時間/単位 |
| | | | 3,390 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 160人 | | 146人 | 1人 | 7人 | 23人 | 30人 | |

| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) |
|---|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書(シラバス)の作成過程及び時期 毎年11月 教育課程(案)の内容を検討 毎年12月 教育課程編成会議において審議 翌年2月 授業計画書(シラバス)の決定 授業計画書(シラバス)の公表時期 入学年度4月 オリエンテーション時に公表 |
| <p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学則第19条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮し総合的に評価する。 成績評価は、A B C Dの4段階評価とする。 A:優(80点以上) B:良(70点以上80点未満) C:可(60点以上70点未満) D:不可(59点以下 不合格) |
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校が目指す人材像を、学則第1条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 |
| <p>学修支援等</p> |

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談やミニテストの結果等から学生の履修状況を把握し、補講等が必要と思われる者に対して、個別指導やグループ指導を実施している。 ・クラス担任制をとっている。 |
|---|

| | | | |
|---|------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 25人 (100%) | 0人 (0%) | 23人 (92.0%) | 2人 (8.0%) |
| <p>(主な就職、業界等)</p> <p>茨城県内医療機関の理学療法士（20人）、茨城県外医療機関の理学療法士（3人）</p> | | | |
| <p>(就職指導内容)</p> <p>就職ガイダンス、学外就職説明会、個別相談</p> | | | |
| <p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>第56回理学療法士国家試験 合格率 86.4%（合格者19人/受験者22人）</p> | | | |
| <p>(備考)（任意記載事項）</p> | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 137人 | 2人 | 1.5% |
| <p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振（1人）、その他（1人）</p> | | |
| <p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>出席不良者や学業等に悩みを抱える学生に対して、担任等が面談等の支援を行っている。</p> | | |

| | | | | | | | |
|----------|--------|---------------------------|----------------------|--------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 医療 | 医療専門課程 | 作業療法学科 | | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 昼 | 3,360 単位時間/単位 | 1,590 単位時 間/単位 | 720 単位時 間/単位 | 990 単位時 間/単位 | 0 単位時 間/単位 | 60 単位時 間/単位 |
| | | | 3,360 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 160人 | 112人 | 1人 | 6人 | 20人 | 26人 | | |

| |
|--------------------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|--------------------------|

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書（シラバス）の作成過程及び時期 <ul style="list-style-type: none"> 毎年 1 1 月 教育課程（案）の内容を検討 毎年 1 2 月 教育課程編成会議において審議 翌年 2 月 授業計画書（シラバス）の決定 ・授業計画書（シラバス）の公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 入学年度 4 月 オリエンテーション時に公表 |
|--|

成績評価の基準・方法

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>学則第 19 条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 ・学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮し総合的に評価する。 ・成績評価は、A B C D の 4 段階評価とする。 <ul style="list-style-type: none"> A：優（80 点以上） B：良（70 点以上 80 点未満） C：可（60 点以上 70 点未満） D：不可（59 点以下 不合格） |
|--|

卒業・進級の認定基準

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>本校が目指す人材像を、学則第 1 条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 ・学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 |
|---|

学修支援等

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談やミニテストの結果等から学生の履修状況を把握し、補講等が必要と思われる者に対して、個別指導やグループ指導を実施している。 ・クラス担任制をとっている。 |
|---|

| | | | |
|--|-------------|-------------------|-------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 16 人 (100%) | 0 人 (0%) | 16 人 (100%) | 0 人 (0%) |
| (主な就職、業界等) 茨城県内医療機関の作業療法士（15 人）、茨城県外医療機関の作業療法士（1 人） | | | |
| (就職指導内容) 就職ガイダンス、学外就職説明会、個別相談 | | | |

| |
|--|
| (主な学修成果(資格・検定等)) 第56回作業療法士国家試験 合格率 100% (合格者 15人/受験者 15人) |
| (備考) (任意記載事項) |

| | | |
|--|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 103人 | 3人 | 2.9% |
| (中途退学の主な理由) 学業不振(2人)、進路変更(1人) | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良者や学業等に悩みを抱える学生に対して、担任等が面談等の支援を行っている。 | | |

| | | | | | | | |
|---------|----------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 教育・社会福祉 | 社会福祉専門課程 | 介護福祉学科 | ○ | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 2,100 単位時間/単位 | 990 単位時間/単位 | 660 単位時間/単位 | 450 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 |
| | | | 2,100 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 80人 | 30人 | 6人 | 4人 | 7人 | 11人 | | |

| |
|--|
| カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画) |
| (概要) ・授業計画書(シラバス)の作成過程及び時期 毎年11月 教育課程(案)の内容を検討 毎年12月 教育課程編成会議において審議 翌年 2月 授業計画書(シラバス)の決定 ・授業計画書(シラバス)の公表時期 入学年度 4月 オリエンテーション時に公表 |
| 成績評価の基準・方法 |
| (概要) 学則第19条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。 ・学内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 ・学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮し総合的に評価する。 ・成績評価は、A B C Dの4段階評価とする。 A:優(80点以上) |

| |
|---|
| B：良（70点以上80点未満） C：可（60点以上70点未満） D：不可（59点以下 不合格） |
|---|

卒業・進級の認定基準

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>本校が目指す人材像を、学則第1条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 ・学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 |
|---|

学修支援等

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談やミニテストの結果等から学生の履修状況を把握し、補講等が必要と思われる者に対して、個別指導やグループ指導を実施している。 ・クラス担任制をとっている。 |
|---|

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---|------------|-------------------|------------|
| 13人 (100%) | 0人 (0%) | 13人 (100%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) 茨城県内施設等の介護福祉士（13人） | | | |
| (就職指導内容) 就職ガイダンス、学外就職説明会、個別相談 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 第33回介護福祉士国家試験 合格率 100%（合格者13人/受験者13人） | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|--|----------------|------|
| 32人 | 1人 | 3.1% |
| (中途退学の主な理由) その他（1人） | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良者や学業等に悩みを抱える学生に対して、担任等が面談等の支援を行っている。 | | |

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|------------------|----------------|----------------|--------------|--------------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 商業実務 | | 商業実務専門課程 | 医療事務学科 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,920 単位時間/単位 | 1,440 単位時間/単位 | 180 単位時間/単位 | 300 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 |
| | | | 1,920 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 40人 | | 16人 | 0人 | 2人 | 5人 | 7人 | |

| |
|--|
| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) |
| (概要) <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書(シラバス)の作成過程及び時期 毎年11月 教育課程(案)の内容を検討 毎年12月 教育課程編成会議において審議 翌年2月 授業計画書(シラバス)の決定 授業計画書(シラバス)の公表時期 入学年度4月 オリエンテーション時に公表 |
| 成績評価の基準・方法 |
| (概要) 学則第19条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。 <ul style="list-style-type: none"> 学内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮し総合的に評価する。 成績評価は、A B C Dの4段階評価とする。 A：優(80点以上) B：良(70点以上80点未満) C：可(60点以上70点未満) D：不可(59点以下 不合格) |
| 卒業・進級の認定基準 |
| (概要) 本校が目指す人材像を、学則第1条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。 <ul style="list-style-type: none"> 学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談やミニテストの結果等から学生の履修状況を把握し、補講等が必要と思われる者に対して、個別指導やグループ指導を実施している。 ・クラス担任制をとっている。 |
|---|

| | | | |
|---|----------|-------------------|----------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 0人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| (就職指導内容) 就職ガイダンス、学外就職説明会、個別相談 | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) 診療報酬請求事務能力認定試験、医療事務技能審査試験、医師事務作業補助技能認定試験、秘書技能検定2級、Microsoft Office Specialist 取得等 | | | |
| (備考) (任意記載事項) 医療事務学科は、令和2年度より開設 | | | |

| | | |
|--|----------------|-----|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 12人 | 0人 | 0% |
| (中途退学の主な理由) | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良者や学業等に悩みを抱える学生に対して、担任等が面談等の支援を行っている。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
|--------|----------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|
| 商業実務 | 商業実務専門課程 | ITビジネス学科 | ○ | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,830 単位時間/単位 | 960 単位時間/単位 | 240 単位時間/単位 | 630 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 | 0 単位時間/単位 |
| | | | 1,830 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 40人 | 29人 | 23人 | 2人 | 6人 | 8人 | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書（シラバス）の作成過程及び時期 <ul style="list-style-type: none"> 毎年11月 教育課程（案）の内容を検討 毎年12月 教育課程編成会議において審議 翌年 2月 授業計画書（シラバス）の決定 授業計画書（シラバス）の公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 入学年度 4月 オリエンテーション時に公表 | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | |
| <p>（概要）</p> <p>学則第19条の規定に基づき授業科目の成績評価を次のとおり行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内授業における成績評価は、学期末考査、中間考査、レポート、実技考査、実習結果等を考慮し総合的に評価する。 学外実習における成績評価は、実習施設の評価、レポート、学内の症例検討会等を考慮し総合的に評価する。 成績評価は、A B C Dの4段階評価とする。 <ul style="list-style-type: none"> A：優（80点以上） B：良（70点以上80点未満） C：可（60点以上70点未満） D：不可（59点以下 不合格） | | | |
| 卒業・進級の認定基準 | | | |
| <p>（概要）</p> <p>本校が目指す人材像を、学則第1条に「医療専門課程及び社会福祉専門課程の教育を行い、専門職業人として、地域の保健医療と社会福祉に貢献し得る人材を育成する。文化・教養専門課程及び商業実務専門課程の教育を行い、広く国際的視野及び多様化するニーズに対応する視野を備えた実践力に富む人材を育成する」と定めている。この人材像に基づき、卒業の認定方針を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、卒業判定会議を経て卒業の認定を行っている。 学校長は、卒業の認定を受けた者に卒業証書を授与する。 | | | |
| 学修支援等 | | | |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 面談やミニテストの結果等から学生の履修状況を把握し、補講等が必要と思われる者に対して、個別指導やグループ指導を実施している。 クラス担任制をとっている。 | | | |

| | | | |
|----------------------------------|----------|-------------------|----------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 0人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| (就職指導内容) 就職ガイダンス、学外就職説明会、個別相談 | | | |

| |
|---|
| (主な学修成果(資格・検定等)) ITパスポート試験、日商簿記検定2級、販売士検定2級、サービス接遇検定2級、Microsoft Office Specialist 取得等 |
| (備考) (任意記載事項) ITビジネス学科は、令和2年度より開設 |

| | | |
|--|----------------|-------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 21人 | 3人 | 14.3% |
| (中途退学の主な理由) 学業不振(2人)、その他(1人) | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良者や学業等に悩みを抱える学生に対して、担任等が面談等の支援を行っている。 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考(任意記載事項) |
|---------------------------------------|----------|-------------|----------|--------------------------------|
| 看護学科 | 200,000円 | 600,000円 | 400,000円 | その他(施設設備費200,000円、実習費200,000円) |
| 理学療法学科 | 300,000円 | 800,000円 | 400,000円 | その他(施設設備費250,000円、実習費150,000円) |
| 作業療法学科 | 300,000円 | 800,000円 | 400,000円 | その他(施設設備費250,000円、実習費150,000円) |
| 介護福祉学科 | 100,000円 | 500,000円 | 250,000円 | その他(施設設備費150,000円、実習費100,000円) |
| 医療事務学科 | 100,000円 | 500,000円 | 220,000円 | その他(施設設備費150,000円、実習費70,000円) |
| ITビジネス学科 | 100,000円 | 500,000円 | 220,000円 | その他(施設設備費150,000円、実習費70,000円) |
| 修学支援(任意記載事項) | | | | |
| 指定校推薦入学特典:施設設備費から100,000円から200,000円免除 | | | | |

b) 学校評価

| |
|--|
| 自己評価結果の公表方法 |
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 自己評価結果を学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。 |
| 学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) |

| <p>学校関係者評価は、関連業界、卒業生、学識経験者により構成する学校関係者評価委員会により行う。同委員会は、本校が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて行った自己評価結果をもとに学校評価を行い、その評価結果を教育活動及び学校運営に活用することを目的とする。</p> | | |
|---|------------------------|-------|
| <p>学校関係者評価の委員</p> | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 龍ヶ崎済生会病院 看護部長 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 関連業界 |
| つくばセントラル病院 総合リハビリテーションセンター部長 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 関連業界 |
| 総和中央病院 児童発達支援事業所 はなもも 管理責任者 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 関連業界 |
| 介護老人保健施設さくら 事務長 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 関連業界 |
| 緒方内科循環器クリニック 事務長 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 関連業界 |
| あびこクリニック 助産師・看護師 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 卒業生 |
| 広瀬医院 理学療法士 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 卒業生 |
| 水府病院 作業療法士 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 卒業生 |
| 介護付有料老人ホーム サンシャイン・ヴィラつくば倶楽部 介護福祉士 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 卒業生 |
| 山王台病院 医事課職員 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 卒業生 |
| 筑波技術大学大学院 名誉教授 | 令和2年6月8日～ 令和5年3月31日 | 学識経験者 |
| <p>学校関係者評価結果の公表方法</p> | | |
| <p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校関係者評価結果を学校事務局に備え付け閲覧に供し、希望者には配布する。</p> | | |
| <p>第三者による学校評価 (任意記載事項)</p> | | |
| | | |

c) 当該学校に係る情報

| |
|--|
| <p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (http://a-ru.ac.jp) で公開する。</p> |
|--|

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | アール医療福祉専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人筑波学園 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 23人 | 21人 | 23人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | －人 | －人 | |
| | 第Ⅱ区分 | －人 | －人 | |
| | 第Ⅲ区分 | －人 | －人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 23人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|--|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 一人 | 0人 | 一人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下) | 0人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 一人 | 0人 | 一人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|----|---|----|-----|----|
| 年間 | 0人 | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 一人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 一人 |

| |
|------|
| (備考) |
|------|

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下) | 0人 | 0人 | 0人 |
| GPA等が下位4分の1 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 0人 | 0人 | 0人 |

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。